

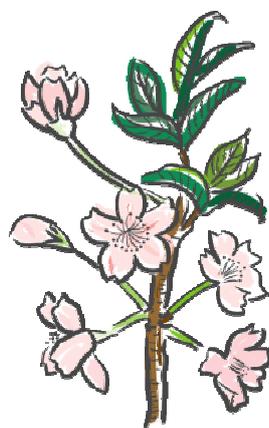


特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

里山だより

2005年4月

春号 23号



名張市赤目町丈六の川原でお花見をするデイサービスの利用者の方々

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

TEL 0595-64-0051

fax 0595-63-4314

HP <http://www.e-net.or.jp/user/ecoakame/>

新理事会体制発足 期待一心！

－ 臨時総会無事成立 第1回理事会で「介護事業継続」を確認－

3月26日エコリゾート赤目の森で、特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会の臨時総会が開かれ、無事に成立し、新しい理事の方たちを選出することができました。また、その後に行われた、第1回理事会で前理事会で議決された「介護事業の中止」の案件について審議され、引き続き事業継続していくことが確認されました。

この間、会員の皆様に理事候補募集や臨時総会のお知らせなどで、理事辞任に伴う新しい理事選任の取組みが行われてきました。赤目の里山を育てる会を大切に思う会員さんからは「会はどうなるのか」などの問い合わせがありました。大切な新しい理事会体制を確立する3月26日に行われた臨時総会には、会員数157名で過半数は79名で、出席83名（うち委任状75通出席8名）の出席を得ることができて、会議は成立いたしました。

会議では、「理事の選任」という議題で、理事の大量辞任の経緯についての理事長の説明や事務局の補足説明があり、理事候補一人ひとりに就任に寄せる思いなどを語ってもらいました。今回問題となった「介護事業」については、概ね「続けていくべきと考えている」と発言される方もあり、今後の赤目の里山を育てる会の将来像も視野に入れた自己紹介が目立ちました。経緯については、これまでの理事会の中で「介護事業」に対する意思疎通が充分でなかったことや、赤目の里山を育てる会に寄せる思いが個別に違うところを今後どのようにまとめていくのかという点が課題でなかったということが出されました。その中で、理事長から特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会は、全県全国に先駆けとなる里山保全に大きな情報発信し続けている会であり、日常的に会を維持発展させていくためには、介護事業の展開は不可欠であり、新しい理事には、頑張ってもらいたい旨の言葉がありました。

このような審議の中で、選任の議決に入り、全員一致で新しい理事を選出することになりました。また、その後で行われた第1回の理事会において、「介護事業中止」の前理事会の決定について審議が行われて、中止をする理由がなく、むしろ積極的な事業推進と里山の利活用を展開することが赤目の里山を育てる会に求められているという議論の中で、「介護事業は継続」という結論に達しました。今後、IT器機を充分に活用する中で、3ヶ月に一度理事会を行っていくことが議論されました。また、新年度に行う定期総会は6月12日に行うことも決定されました。

里地里山保全活動促進事業で、「ペレット形成機」設置できる！

三重県が進める「里地里山保全活動」の一環として、県下の里地里山保全活動を展開している団体を支援していくために、保全整備に係る機器の助成等が受けられるようになりました。昨年度は「薪割機」を設置することができました。今年度は、その延長線上の事業として「ペレット成形機」の設置補助を求めておりましたが、平成16年度の補助事業で設置することが認められ、赤目の森に3月25日に石川県の業者から納品されました。



緊急ニュース 里山保全の活動認められる！ 自然環境功労者 環境大臣表彰に (特) 赤目の里山を育てる会が受賞決まる！

4月29日に東京で授賞式 団体で三重県初の受賞か！

4月6日朝 (社)日本ナショナル・トラスト協会からの連絡で、環境省から自然環境功労者環境大臣表彰に、(特) 赤目の里山を育てる会が受賞することが決まったことが分かりました。功績の概要としては、ナショナル・トラストによる買い取り地の保全管理、カワバタモロコ (絶滅危惧ⅠB類) の保護増殖、子どもたちを対象とした環境教育等を実施してきたことが認められたということです。

授賞式は、4月29日の「みどりの日」に東京の東京厚生年金会館で行われて、栄えある賞を受賞することになります。赤目の里山を育てる会では、吉森理事長をはじめとして、他の理事も同行し、授賞式に参加したいと考えています。



赤目小学校の4年生の里山自然散策授業の様子

里山広場の貯金箱に

100万円の募金が投函される

昨年の秋に里山広場にある募金箱に紙に包まれた札束100万円が入っているのを事務局長が見つけてました。本当にありがとうございました。募金者の方の筆跡で

「間伐やつる切り、枝打ちなど、樹林のために、すべての美しい生き物のためにお使い下さい」と書かれていました。

赤目の里山を育てる会では、募金者の意向に添い、里山保全の最先端の活動を促進するための器機拡充に使うために、検討を重ねてきました。里山の保全の最も大切な伐採更新の促進を加速させていくためには、伐採材の有効活用を図ることが最も大切であることから、理事長にペレット成形機の設置事業と、チップーチョッパーの器機を導入する資金に活用することの指示を得て、有効に活用することに決まりました。



赤目の里山にある同型の募金箱

2004年3月～2005年3月



赤目の里山を育てる会活動記録

●2004年5月～2005年3月

里山保全リーダー養成講座・レディース講座

両講座で「里山」の概念や暮らし文化などを学び、実際にフィールドにでて除間伐や里道作りなどの実践を行いました。赤目小学校の4年生の保護者の参加もあり、親子で「赤目の里山」に関わりを持ち、学んでいる方もいらっしゃいます。また、ササユリの小道も綺麗に整備し野外談話テラスをみんなで作り、ササユリの開花時期にはそこでティータイムできることを楽しみにしているみなさんです。

年2回行われる国際ワークキャンプの青年たちとの交流も行い、第一号トラスト地までの新しい小道も整備し開通することもできました。



除間伐の講習



樹木の同定



豆腐作り



里山概論について 両講座で講義



きのこの観察会



中川重年さんをゲストに迎えて



ササユリの小道の整備



藍染体験栽培から染め物まで体験





- 年4回 春夏秋冬
ジャスコこどもエコクラブ
親子参加で赤目の森で思いっきり
遊び学びました。



- 2004年7月
イギリスの社会的起業家の来訪



- 2004年9月
三重県立桔梗が丘高校 環境授業の講演
伊井野事務局長と国際ワークキャンプのメンバー

- 2004年10月
関西大学のゼミ
里山の保全ワークのリーダーとして国際ワークキャンプの
佐野憲一朗君と野島省吾君が活躍



- 2004年8月20～9月5日 国際ワークキャンプ(夏)
- 2005年3月10日～24日 国際ワークキャンプ(春)



● 赤目小学校 年4回 野外授業



● ナショナルトラスト全国大会



和歌山県天神崎にて行われました。

デイサービス赤目の森の様子

里山でのデイサービスは、閉じこもりがちになる高齢者の方にとって、身近な自然が心を癒し、季節の変化を感じることが刺激になり、お元気になられる方が多いです。利用者のかたも週1回から2～3回に変え、赤目で過ごされる方が増えてきました。また、里山のフィールドを活用し「デイサービス赤目の森」ならではのプログラムを展開し地域の高齢者福祉に貢献しています。



里山広場で運動会！綱引き、パン食い競争、玉入れをして外でお弁当を食べました。



クリスマス会 サンタさんからプレゼント



トムソーヤ広場までみんなでお散歩・・・*
森の中でおしゃべりしながらのティータイムはとても楽しそう



シイタケの植菌
クヌギやコナラのホダ木にドリルで穴をあけ、シイタケの菌を入れます。



薪割り

里地里山保全活動の助成で購入した薪割り機を活用！利用者の方が、暖炉にくべる割り木を作っています。里山ならではの光景です。男性の方に大人気です。



月ヶ瀬の梅林へお花見

国際ワークキャンプ名張 2005 春

2005年春キャンプリーダー 野島 省吾

今回のワークキャンプは3月10から24日までの2週間にわたって開催されました。雪が降り、時には吹雪くこともあり、晴れた日がわずか3,4日と天候には恵まれなかったキャンプでしたが、その中で第一号トラスト地へ向かう林道作りのための木々の伐採、里山広場の片付け、笹刈り、第二号トラスト地の田への鍬入れなどをしてきました。



10人～という比較的大きな人数が1週間ほど働けば成果も目に見えるものとなり、とても充実したものとなりました。(左写真 田の鍬入れ)

まだまだ改善の余地は、現場やメンバーの心構えなどいたるところに残されており、これらの課題を次にしっかり引き継ぎ、少しずつでも良いものにしていけたらと思います。

ワークキャンプのもうひとつの目的である国際交流という点では、今回のメンバーはとても仲がよく、小学校訪問や吉森会長の自宅での餅つき体験、休日を利用しての赤目四十八滝ハイキング、奈良市への見学を通してよい関係を築くことが出来ました。

しかし、里山フェスタ等を通じての狙いであった、地元との交流は十分とは言えず、フェスタの参加者は身内が主となり少し寂しいものでした。次回からは早い段階での広報と、その手段を広げ、より多くの人たちにこの赤目の里山の存在と残されたよき自然を知ってもらえるようにしたいです。



(上写真 里山リーダー養成講座の参加者と)

最後になりましたが、このキャンプを無事に終えることが出来たのは、赤目の人たちの協力、特に育てる会の伊井野さん、吉田さん、吉森さんや湯川さんらの暖かい協力があったからです。メンバーを代表して改めてお礼を言わせてください。2週間どうもありがとうございました。そして今年の夏、来年の春・と続いていくこれからのキャンプでの協力をお願いします。

今後の行事予定

- ・ 4月17日 里山リーダー養成講座
里山レディース講座
- ・ 4月29日 環境大臣表彰授賞式(東京)
イオン植樹祭(名張市)
- ・ 6月12日 理事会・定期総会
於エコリゾート赤目の森
- ・ 9月 1日 国際ワークキャンプ 夏
15日 於エコリゾート赤目の森
- ・ この他に「子どもエコクラブ」
- ・ 里山リーダー養成講座
里山レディース講座などが新年度
始まります。ご期待ください。

里山広場の整備について

新年度より、里山広場の片付けと整理を進めていきたいと思っております。4月末までに育てる会のものと私物を区別したいと思っております。今月末までに私物が置いてある方は一度引き上げていただきたいと思っております。5月以降は、整理を進めていきますので、ご協力ください。

また、機械類の使用についても、5月以降は、施錠して利用する場合は、事務局に確認をとっていただき、機械の維持管理を行っていきたく思っています。ご協力 よろしく願います。使われる際は、事前に事務局までご連絡ください。

里山の定例作業日を毎月第四日曜日といたします。

新しい理事会体制の中で、赤目の里山の保全担当理事が、湯川さんと決まりました。事務局との打ち合わせの中で、定例の里山保全の定例作業日を毎月第四日曜日にすることを決定しました。この日は、できるだけの人たちを集めて、里山の作業を手分けして進めたいと思っております。里山リーダー養成講座の受講生の方や里山レディース講座の方々にもお知らせして、多くの人たちとともに赤目の里山の保全活動ができればと思っています。

天候の悪い時は、里山広場の小屋に次回の予定を知らせておきますから、または事務局までお問い合わせください。ナイスの青年たちに負けないように、頑張りたいと思っています。

~~~~~

【ろうきん東海の「NPO寄付システム」にご協力ください】 現在112名様

ご協力いただいておりますでしょうか。ろうきん当会での赤目の里山を育てる会への募金どうぞ、よろしくお願いいたします。詳しい資料をご用意しておりますから、事務局へご連絡ください。

【赤目の里山を育てる会のメルマガの読者になってください】 現在154名様

赤目の里山を育てる会のホームページ <http://www.e-net.or.jp/user/ecoakame/>  
このページで、メールマガジンを発行しております。読者登録をしていただけますと、無料で毎月、赤目の里山を育てる会 エコリゾート赤目の森の情報を受け取ることができます。ぜひ ご登録を

### 編集後記

名古屋で里山保全の活動をリードしてきた木文化研究所の水野一男さんが、4月2日に脊椎ガンのために死去されました。享年54歳。突然の里山仲間を失い、編集子も落胆

4月15日にはしのぶ会が開催。彼の意思をついで、益々頑張らなければと思う次第。

### 赤目の里山を育てる会の現状

個人会員 159名  
賛助会員 14団体個人  
みどりの募金累計金額 336万円  
名張市の会員が増えていますが、都市住民の方々の退会と相殺されています。厳しい社会を反映していると思っております。